

2.11 最適なアセットアロケーション

無リスク資産とリスク資産のバランスが重要

極端な資産配分にならないければ、投資家のニーズに応じてアセットアロケーション（資産配分）を考えれば問題ありません。ただし、預貯金などの無リスク資産に比べてリスク資産が過大にならないよう、リスク管理はしっかりと行いましょう。

2.11.1 それぞれの資産クラスの意味を考え直す

「アセットアロケーション（資産配分）で運用成果の90%が決まる」という呪縛から解放されると（参照：「アセットアロケーション（資産配分）で運用成果の90%は決まらない」（20ページ））、アセットアロケーションをもう一度見つめ直すことができます。どうして、株式に投資するのか、どうして債券に投資するのか、そして、どうして外貨建て資産に投資するのかという基本に戻って考えるようにしましょう。

2.11.2 効果的に資産を殖やすために株式

株式に投資する理由は、持っている資産を効果的に殖やすためです。毎月3万円ずつ、20年間積み立てるとします。運用利回りが3%であれば20年後に約985万円積み立てられています。運用利回りが1%であったとしたら、約797万円。効果的に資産を殖やしたいのであれば株式に投資するほうが理に適っています。

2.11.3 老後の生活費のために債券

債券に投資する理由は何でしょう。通常、債券には、利息が付いています。理想では、十分にたくさんの債券を保有しておき、利息だけで生活できるようになる。そうすれば資産は減らないし、働かなくても食べていける。これが債券を保有する理由です。実際は、それほどたくさんの債券を保有することができる人はごく一部ですから、普通の場合は利息を受け取り、元本の一部を取り崩して生活費に充てるということになります。つまり、シニアライフのことを考えると最終的に保有しておきたい資産は債券ということになります。

2.11.4 インフレ対応などは外貨建て資産

外貨建て資産を保有する理由は、インフレ対策です。日本はエネルギー資源を持たない国です。もし、天然資源の価格が上昇したら、輸入価格が上昇しインフレになります。為替は円安になるでしょう。この時、天然資源とともに価格が上がる外貨建て資産を保有しておけばインフレ対策（ヘッジ）になります。日本の投資家が豪ドル建ての資産を保有したがる理由の一つは、豪ドルが天然資源にリンクした通貨だからです。

その他、世界経済が日本以外の国や地域でより成長すると考え、外貨建て資産への配分を増やすという選択肢も考えられます。

2.11.5 ポートフォリオ全体を管理

リスク資産の意味づけは投資家によって異なります。投資家のニーズに応じてポートフォリオを構築して問題ありません。最終的なリスクコントロールは無リスク資産を含めたポートフォリオ全体で管理するとよいでしょう。